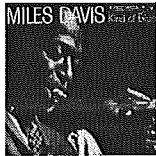


<Artist> Miles Davis
 <Title> So What
 <YouTube> <http://www.youtube.com/watch?v=DEC8nqT6Rrk>

今回はジャズの歴史を変えた、発売から50年以上経てもなお売れ続けているジャズ史上屈指の名アルバム、Miles Davis “Kind Of Blue”(1959年)の1曲目、“So What”を探訪します。このアルバムはそれまでのモダンジャズ(ビーバップ)の基本的構造であった「激しいコード進行を原動力とした楽曲の推進とそのバリエーション提示によるスポーツ性・ゲーム性」というパラダイムから、「モード提示による楽曲の繋留」というパラダイム(モードジャズ)へと変化させたことに大きな意義があり、“So What”もモード理論に基づく楽曲構造となっています。まずはコードを見てみます。



<Mode : Dドリアン>
 Aパート Em7 Dm7 (繰り返し)
 Bパート Fm7 Eb m7 (繰り返し)

BパートはAパートが転調したものですので、基本構造はAパートのみで、コードはたった2つだけです。ずっとこのコードの往復によって曲は進んでいきます。

Em7(ミソシレ)とDm7(レファラド)の往復は、鍵盤で言えば白鍵のみの隣のコード同士を行き来しているだけです。この「同じ形の隣同士のコードの提示」がモードのプレゼンテーションとなります。モードでは、主音(ルート)となるコード(ここではDm7)と、そのモード特有のサウンドを持つ音(特性音)を持つコード(Em7)の提示によって、モードをプレゼンテーションします。実はルート(ここではレ)の音は、Dm7にもEm7にも含まれており、基盤となるルート音は持続しながらも他の構成音がすべて変わってコードの色彩が鮮やかに変化するという状況になります。それまでのモダンジャズのような、コード進行の物語性(オチへ向かう展開)がないため、モードでは「オチのない話」のように同じムードに留まり続けます。

しかしコードに縛られなくなるため、アドリブなど上に載せるものの自由度は上がり、調性の拡張への扉を開いたのです。こうした「ジャズのルールの更新」をもたらしながらも、聴き心地は極めてポップで気持ちがいい、というところがこの曲／アルバムの名盤たるところでしょ。モードのサウンドは、非常にクールで浮遊感のあるムードを表現することができます。それまでのコード進行の世界の調性(キー)の重力場を無重力化します。

ジャズのパブリックイメージである、「都会の、夜の、大人のムード」といったものはこのサウンドデザインによって醸成されていると言っていいでしょう。クラブミュージックにも同様に浮遊感がありミニマリズムがありますが、意図的かどうかは別としてモードの概念やサウンドは多用／応用されています。

みなさん、collectiveに遊びにきてくださり、ありがとうございます。今回は日本の異才ミュージシャン、oorutaichiについて簡単なコラムを書かせていただきます。

「異才」という表現が相応しいミュージシャンは数多くいますが、僕が一番思いつのが、oorutaichi。彼は僕の高校時代からの友人で、当時から異才ぶりを発揮していましたが、近年はその音楽がかなり洗練されてきたように思います。

2011年にリリースしたCOSMIC COCO, SINGING FOR A BILLION IMU'S HEARTY PIは、従来の前衛さをさらに深化させつつ、ポップスとしての可能性も示す名盤で、様々な音楽誌やレコ屋で絶賛されたことは記憶に新しいところです。

その後、oorutaichiは渋く、自主制作的なリリースを続けています。なかでもオススメなのが、oorutaichiの連れ合いのytamoとキセルとの共作シングル「ともしび」(2012)。往年のキセルサウンドがoorutaichi+ytamoとブレンドし、それはそれは不思議で気持ちのよい楽曲に仕上がっています。この盤は自主制作なので今のところoorutaichiのライブ会場ぐらいでしか購入できないはず。itunes storeのようなデジタル音源を安く簡単に売買できるシステムも良いですが、このようなフェイストゥフェイスの売買は作り手とつながる感覚がもつことができ好感がもてます。

oorutaichi関連音源で一番オススメなのは、東日本大震災義援金プロジェクト「DIY HERATS」のために提供されたoorutaichi+ytamoの「plant」という楽曲。静かで優しいメロディと歌声のうしろには、現状への批判的な眼差しと未来への希望が力強くみなぎっています。

こちらは「ともしび」とは違ってかわって、デジタルリリースです。下記URLから200円でダウンロードできます。小額ではありますが、身近で素敵な寄付行為だと思います。
<http://www.diystars.net/hearts/P00164.html>
 視聴もできますので、是非。

information

今回のcollectiveはレギュラーメンバーの楠田行展とitaru wakuiが不在ですが、三重のeleven.名古屋のblacl cream等、様々なパーティで敏腕を發揮するDJ APOLLOのを大フィーチャー。APOLLOのロングセットをどうぞお楽しみください。

次回コレクティブは約3ヶ月後を予定しています。詳細はブログでご確認下さい。
<http://blog-collective.blogspot.jp/>

三十路女の食事情 “mackiart”

今年本厄を迎えましたまきあーとです。30代に突入して思うのは内面を磨いていかないと～ということ。外身を磨く努力も必要！とは思っていますが、やっぱり内側から輝いている女性を見ると、こうなりたいな～と思うのです。

内側ビューティーでまず思いつくのは“食生活”だなと。食べる事は毎日の習慣ですからね。もともと食いしん坊で、食べる事がとにかくにも好きなのですが、年齢とともに“身体が喜ぶものを食べよう”と思うようになってきました。簡単どころでいうと、最近“旬”な食材にハマっています。なぜその食材を今食べるのか？という意味を知ることが非常に面白いのです。

旬の食材は、食べるだけで理にかなった栄養の取り方になるのだそうです。季節によって人間が本能的に要求する味が、旬な味の特徴と一致するようで、例えば春の食材のたけのこ、ふき、せりなどの山菜、いちご、ホタテなどは紫外線から身体をまもる抗酸化物質がリフェノールが豊富に含まれているので、春先の紫外線対策になるのです！単に沢山収穫されるから安くなる旬のもの！では無いんですよ。それぞれの季節にあった効能が食材にはあるので、そこを知らながら食事することで自然とその季節に順応できる身体づくりができてしまうのです。

最近、食に携わる方と話す機会が多いのですが、発酵食ブーム、地産地消など以前の日本のライフスタイルが再注目されてきていますよね。食に対して意識を高くもとうという人が増えてきているのは確かなのですが、一方で与えられた情報を鵜呑みにする人が多すぎるとも言っていました。

食の世界の裏話なども聞かせてもらいましたが、おそろし～こと沢山！知っているべきことが知らされていない事実が気づかされました。でも、そのことにこだわりすぎると結局何も口にすることができなくなってしまうので、情報を取り入れるだけではなくて、自分で考えて選択することが大切だなと感じました。

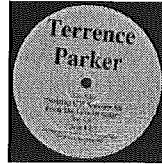
何だか後半とっても固い文面になってきてしまいましたが、要は何気ない食生活も意識を高めることで、結果的に身体に良いことをするので、内面からも美しくなれるのではと思ったのです。“賢く美味しく”思想がもっと広まれば、食べることを楽しむ人がもっと増えるのかなとも思っています。

きっとこのプレスを読んでいる人たちは同世代の方々がほとんどのはず！皆さん、これから食生活もちろんですが、身体にいいことをしていきましょう！そして内から磨いて「いい歳の取り方をしているね！」といわれようじゃありませんか！さー今日は美味しいIOR?Iの料理に舌鼓を打ちながらパーティーをどうぞ楽しんでいってください。

私のオススメは踊りながら楽しめる“いぶりがっこ”“チャンジャ”と熱燗です。どうぞおためしあれ！

recommend music “yu”

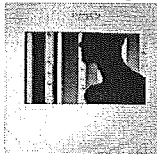
1. TERRENCE PARKER
Nothing Separete Me From The Love Of God (12, 2002)



2. NATASHA KING (LP, 1984)
On Ice



3. JOHN MARTIN (LP, 1980)
Grace & Danger



4. SMOKEY ROBINSON (LP, 1980)
Warm Thoughts

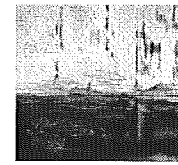


5. YUKIHIRO TAKAHASHI (LP, 1982)
What Me, Worry

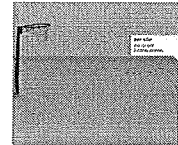


recommend music “DJ APOLLO”

1. AMETSUB
All Is Silecne (CD, 2012)



2. MARC LECLAIR
Musique Pour 3 Enceintes (CD)



3. CARL CRAIG VS JOHNNY BLAS (THE NEW LATINAIRE)
Picadillo 7 (12, 1999)



4. BEASTIE RESPOND
Fictious Nostalgia LP Sampler (12, 2013)



5. Robert Glasper Experiment
Consequence Of Jealousy (Feat. Meshell Ndegeocello) (LP, 2012)

